



この度、前任の井上雅子校長の後を受け、田無第一中学校より着任しました辻 康一（つじ こういち）です。これまでのひばりが丘中学校の歴史と伝統を大切に引き継ぎ、より一層発展していけるよう、教職員みんなで力を合わせて精一杯努めて参ります。

私は、奈良県の斑鳩という地で生まれ育ちました。日本で最初の世界遺産に選ばれた法隆寺がある里です。法隆寺は今から1400年前に建てられた世界最古の木造建築ですが、使われている材木を修理のために削ってみると、今でもよい檜の香りがするそうです。その法隆寺は、私の家からも、通っていた学校からも、いつも空に向かってそびえ立つ五重の塔が見えましたし、小さなころは広い境内にドングリ拾いに行ったりもしました。

そんな私の友達のおじいさんに、法隆寺の大修理や薬師寺金堂再建の指揮をとった宮大工の棟梁、西岡常一さんという方がおられます。この方は、あまりの厳しさに「法隆寺の鬼」と呼ばれ、数々の歴史的な寺院の修理に力を尽くしてきた人で、本もたくさん書かれています。

その西岡さんの言葉に「塔組は木組なり。木組は木の癖組なり」という言葉があります。これは、代々法隆寺の宮大工の棟梁に伝わってきた教えだそうです。この言葉を西岡さんは、まだ子供だった私たちに次のように教えてくださいました。「何千年も持ちこたえる建物を造るには、それぞれの木がもっている癖、特徴を生かしながら、『適材適所』ということを考えなければならない。南側の斜面で育った真っ直ぐな木は南側に、北側の斜面で育った曲がった木は北側に、それぞれのもつ個性を生かして造ることで雨風や地震に耐え、何千年もそびえ立つ塔になるのだ」そうです。

それ以来、私の中にはずっとその言葉が心に残っています。また、このことは人とのつながりにおいて、どの社会でも言えることだと考えています。ですから、このひばりが丘中の学級においても、それぞれの個性が生かされる学級、みんなが自分の居場所を感じられるような学級・学年・学校を作りたいと思います。そして、このひばりが丘中学校が、天高く、どんな嵐にも揺るぎない塔になるように、生徒も教職員も、みんなで力を合わせて参ります。

どうか、よろしく願いいたします。

令和8年度は、通常学級は1年生6学級177名、2年生5学級169名、3年生は5学級163名で合わせて16学級、I・J学級は、I学級は4学級、J学級は3学級で1年生16名、2年生15名、3年生15名、合計46名です。全校の生徒数は1年生193名、2年生184名、3年生178名、合計555名と、学級数は増えてきましたが、生徒数は昨年とほぼ同じです。

今年度も学校運営協議会（コミュニティスクール）とともに、保護者や地域住民の方々に学校運営や学校の課題や目標を共有していただき、本校の教育活動を応援していただきたいと思います。